

IPO銘柄 三洋貿易 (3176・東証2部)

コード	投資単位	公開株式数	仮条件 (上限 PER)	主幹事証券
3176	100株	公募: 260.0万株 売出: 26.0万株 (OA42.9万株)	420円~ 460円 (4.9倍)	三菱UFJモルガン・スタンレー証券

■ 日程



ゴム、化学品、機械資材の輸出入・国内販売が主力事業

■ 事業内容

ゴム、化学品、自動車部品、機械機器、科学機器、分析機器、その他各種商品の輸出入・国内販売を手掛ける。ゴムではタイヤ向けなどの合成ゴムとゴム用副資材が中心で、化学品では塗料やインキ添加剤が主力。機械・資材の主力は米CPM社の飼料製造用造粒機。第2位株主は「アロンアルファ」で有名な東亜合成で、主要顧客はLIXIL、KYB、東海ゴム工業、トヨタ紡織など。24年9月期第3四半期累計の売上高構成比は、ゴム・化学品が49.3%、機械資材が18.0%、海外現地法人が17.8%、国内子会社が14.3%を占めている。

■ 特徴

同社は販売後のサポートだけでなく、販売前に商品開発のサポートも行うなど、技術商社としての評価が高い。営業社員の40~45%が技術系で、メーカー並みの技術サポートを可能としている。海外では、北米、中国、タイなど5カ国に現地法人を有し、現地顧客向けに輸出入、販売を行っている。

アナリストコメント

■ 定量分析

13年9月期の連結経常利益は前年見込み比0.9%増の23億9,900万円を計画する。家電、情報機器、インキ、液晶・半導体業界向けが伸び悩む一方で、自動車関連業界向けは好調に推移している。会社側は医療関連商材や環境関連商材など新分野の開拓にも力を入れていく方針。

■ 定性分析

足元の業績成長率が低いうえ、中長期的にも安定的な推移が見込まれる業態であり、先端的なビジネスモデルを好むIPOマーケットにはマッチしていない。また、利益率の低い商社株、成長イメージの抱きづらい東証2部上場案件である点も人気化しにくい要因になるとみられる。

■ 需給状況

仮条件の上限で試算した市場からの吸収金額は15億円。東証2部上場案件ではあるが、買い人気が高まりそうなビジネスモデルでもなく、やや荷持たれ感が意識される。ただ、配当利回り(13年9月期予想ベース)が6.5%台と高く、これが初値の下支え要因となる可能性がある。(小泉健太)

■ 類似企業

三洋貿易(3176・東証2部)	予想PER4.9倍 (仮条件上限)
パーカーコーポレーション(9845・東証2部)	予想PER4.0倍
堺商事(9967・大証2部)	予想PER5.5倍

■ 引受証券

三菱UFJモルガン・スタンレー証券、大和証券、SMBC日興証券、野村證券、極東証券、藍澤證券、東海東京証券

業績・財務指標

	売上高 (百万円)	前年比 (%)	経常利益 (百万円)	前年比 (%)	純利益 (百万円)	前年比 (%)	EPS (円)	1株あたり 年間配当金(円)
11年9月期(実績)	48,790	2.8	2,292	10.0	1,020	25.3	88.9	18.0
12年9月期(見込み)	48,842	0.1	2,378	3.7	1,134	11.1	98.8	25.0
13年9月期(会社予想)	53,562	9.7	2,399	0.9	1,299	14.6	93.4	30.0

	発行済み 株式総数(株)	総資産 (百万円)	純資産 (百万円)	資本金 (百万円)	BPS (円)	自己資本比率 (%)	自己資本当期 純利益率(%)
10年9月期	12,774	22,230	10,445	638	885.7	45.7	8.4
11年9月期	12,774	22,270	11,219	638	953.1	49.1	9.7

大株主上位 (上場前)

	氏名または名称	所有株式数(株)	所有割合(%)
1	三洋貿易	1,300,063	10.18
2	東亜合成	748,665	5.86
3	損害保険ジャパン	641,556	5.02
4	玉木迪	568,984	4.45
5	三菱東京UFJ銀行	568,742	4.45
6	三井住友銀行	568,742	4.45
7	三井住友信託銀行	568,000	4.45
8	東銀リース	564,240	4.42
9	三井住友海上火災保険	530,762	4.15
10	明治安田生命保険	337,664	2.64

経営陣

役職	氏名
代表取締役社長	松本 善政
取締役執行役員(事業本部長)	鈴木 昭二
取締役執行役員(経営企画室担当)	長根 伸治
取締役執行役員(管理本部長)	小林 和明
監査役(常勤)	玉木 迪
監査役(常勤)	宇野 隆
監査役	山田 洋之助

モーニングスターIPOレポートの読み方

特 徴

モーニングスター IPO（※1）レポートでは、日本国内の取引所に新たに上場する銘柄を取り上げ、モーニングスターが位置する中立的な第三者としての立場から IPO に関する情報を提供いたします。ブックビルディング（※2）が始まる前にレポートを提供することにより、IPO への参加を検討している投資家にとって有用な情報となるでしょう。モーニングスター IPO レポートには、企業名・コード・公開株式数など基本情報やブックビルディング期間・申込期間など IPO 日程のほか、モーニングスターの担当アナリストによるコメントを掲載いたします。

※1 IPO (Initial Public Offering)：新規株式公開。

※2 ブックビルディング：引受証券会社が機関投資家などの意見をもとに決定した仮条件を投資家に提示し、投資家の需要がどの程度あるかを把握することによって、マーケットの動向に即した公開価格を決定する方法。一般的に需要積み上げ方式と呼ばれる。

項目説明

■ 事業内容

新規上場企業の事業概略を解説します。主要製品やサービスのほか、セグメント別の売上高構成比率などを記載。新規上場時の事業の状況や、先行きの見通しなども交えて分かり易くお伝えいたします。

■ 特徴

新規上場企業の設立経緯から現在の事業環境、ビジネスモデルや事業の強み、顧客動向、業績内容、海外展開、経営陣など様々な観点から特筆すべきエッセンスのみを抽出し、掲載いたします。

■ 定量分析

新規上場時に開示される前期、前々期の業績実績と今期の会社計画を用い、業績の成長性や収益性、財務安定性の面から新規上場銘柄を分析いたします。

■ 定性分析

新規上場銘柄が持つ事業の特性や事業環境、セクター動向などを踏まえ、定性的な評価をするほか、足元の株式市場の状況などを考慮して、マーケットから見た新規上場銘柄に対する見方なども掲載します。

■ 需給状況

公募・売り出しの株数と仮条件をふまえ、市場からの吸収金額を試算するほか、足元の新興市場の動向、類似企業の株価推移、ベンチャーキャピタルによる保有株放出の可能性なども考慮し、上場初日の需給状況を予想いたします。

■ 類似企業

新規上場企業と同じ業種に属する競合他社や類似企業を取り上げて PER を併記いたします。PER の水準は初値の参考指標として有効です。